

謹賀新年

年頭のごあいさつ

美祢市長 村田 弘司



新年明けましておめでとございませう。市民の皆様には、希望にあふれる新年をお迎えのことごとく、心よりお慶び申し上げます。

平素は、市政推進に對しまして、心温まるご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、新市となり間もなく2年近くになるうとしていますが、進展する地方分権社会の進展により、自治体により一層自主性が求められる環境

の中、昨年は政界に政権交代なる激震が走った

歴史的な年となりました。このようなか、政権交代に左右されない不変の行政基盤を築き、市民生活に揺るぎない安心感をもたらすことができるよう、「市民

が夢・希望・誇りをもって暮らす交流拠点都市 美祢市」を基本理念とする第一次美祢市総合計画の策定をいたしました。

まずは、市民の皆様が安全に安心して健やかに暮らすことができるよう、医療や福祉、そして子育て環境の充実を図ることを第一に掲げています。そのための第一歩として、今年、山口大学の羽生正宗教授が委員長を務められた「美祢市立病院事業あり方検

討委員会」よりいただいた答申を基軸として、地域医療の中核を担う2つの市立病院が、持続安定的に質の高い医療と看護が提供できるような体制づくりを着実に進め、美祢医療圏を構築したいと考えています。子供から高齢者まで、全市民の安心の拠り所として、2つの市立病院を引き続き運営いたします。

さらには、子育て支援対策として「美祢市ファミリーサポートセンター事業」を、昨年9月に開始いたしました。本事業は、仕事や家庭の用事などで子供の世話ができないときに、一時的、臨時的に手助けをする有償ボランティア活動の橋渡しを行うものであり、これにより、子育て中の誰もが仕事と育児を両立し、安心して働くことができる環境が整備され、ひとにやさしいまちづくりに励んでいるところですよ。

また、市民の皆様にとって、大きな課題の一つでございました交通手段の確保を実現するため、「ミニバス運行」を昨年より開始いたしました。個人の玄関先まで出迎えてくれる「ミニバス運行」は、私にとっても念願の政策のひとつであったわけですが、今後「ミニバス」の運行区域を

徐々に拡大し、高齢者や交通弱者の方々にとりまして利便性の高い、生活基盤の充実したまちづくりに邁進してまいりたいと考えています。

次に、東洋屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」やカルスト台地「秋吉台」をはじめとする、無限の可能性を秘めた多くの観光資源を有する本市にとって、さらなる観光交流の促進を図ることは、全市民の希望であると同時に誇りでもありません。

昨年、秋芳洞開洞百周年を記念し、秋芳洞での「光響ファンタジー 水と大地の神秘」等、数々の画期的かつ効果的な地域発信イベントに取り組んだ結果、本市への観光客数は着実に増加の一途をたどっています。また、秋吉台は、昨年見事に読売新聞社の「平成百景」の栄冠に輝きました。加えて、今年完成いたします「美祢市観光振興計画」のもと、国内外を問わず世界有数の観光立市へと導くため、誇りうる観光資源をさらにアピールしてまいります。

私は、新市の舵取り役を授かって以来、「交流拠点都市 美祢市」というキャッチフレーズを駆使して、美祢市のトップセールスを行っています。観光資源はもとより、そ

れ以外の地域経済の活性化にも、より一層の精力を傾注してまいりたいと考えています。一昨年に端を発したリーマンショックから一旦回復の兆しを見せたところ、昨年突如衝撃を与えたトバイショック、これらにより経済活動は世界的に低迷しています。しかし、県内20市町中6番目に広大な472.71km²という面積を有する本市には、豊かな地下資源、類い希な観光資源があります。これらを活用した商工業と、自然資源に恵まれた本市ならではの基幹産業である農林業の振興に重点を置き、雇用の拡大を図るため、「交流拠点都市 美祢市」の旗を高く掲げ、より一層のトップセールスを続けてまいります。

昨年は、新政権において各種事業の必要性を判定する事業仕分けが行われました。税金の無駄遣いをなくし、国民生活の立て直しに遣うという大義は、市政を預かる者として当然のことであると考えています。同時に、地方自治体に係る事業仕分けは、基礎自治体を重視し地域主権の立場をふまえるものであるべきであり、市民の意見を十分尊重する必要があり、国と地方が対等の立場で対話してゆける

美祢市議会議長

秋山 哲朗



美祢市民の皆様、新年明けましておめでとございませす。

平成22年の年頭に当たり、市議会を代表いたしましたして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

市民の皆様方には、明るく希望に満ちた新年を、ご家族おそろいでお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、市民の皆様には、市議会に対し、温かいご理解と、絶大なご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

「美祢市」も合併をして、今年3月には、早や3年目を迎え、我々議員も任期の折り返しの年でもあります。

この2年間の市議会を振り返ってみますと、合併初年度

は、旧市町それぞれ
の議会運営
のの違いから来る
戸惑いや、合併
後の市政を取り
巻く多くの課題
が山積する中
で、議論の多く
が旧市町時代の
政策に集中する
状況でありまし
た。しかし、2
年目の昨年度は
党派結成などに
よる議員相互の信頼関係も生
まれ、また執行部においても
組織体制の充実などで、徐々
に新しい「美祢市議会」の基
礎固めが出来つつあり、この
ような重要な時期に、市議会
議長としてことにあたられた
ことは、大変光栄に存してい
るところであります。

さて、国では、昨年、政権
交代があり、新政権は大きな
政策として、地域主権改革を
掲げ、これにより地方では、
自己決定・自己責任が強く求
められる本格的な地方分権時
代が到来する中で、最近の社
会経済情勢は、地域経済の低
迷、人口減少など、様々な問
題を抱えており、とりわけ都
市と地方の格差問題は、極め
て深刻であります。

美祢市においても過疎化、
少子高齢化などにより、人口
の減少に伴う地域の衰退や、
公共事業の減少による産業の
冷え込みが進み、市の財政も
極めて厳しい状況にある中
で、商工業・観光産業・農林
業の振興、行財政改革など、
早急に対応しなければならな
い課題や重要な問題を数多く
抱えておりますが、今後は市
民・行政一丸となつて、合併
によるスケールメリットを活
かし、「秋吉台」「秋芳洞」等
の豊かな観光資源を活用し
て、活気のあるまちづくりを
進めなければなりません。

そして、昨年12月議会で可
決した美祢市の将来像を描い
た「美祢市総合計画基本構想」
を基に、市民が「夢・希望・
誇り」をもって暮らす交流拠
点都市 美祢市を基本理念と
し、安全・安心のまちづくり
に向けて、市民と行政の協働
による個性あるまちづくりを
進め、希望を持って暮らして
いける美祢市を、次世代に引
き継げるよう努力していくこ
とが、私たちに課せられた使
命であると考えております。
私ども市議会といたしまし
ても、懸案であります次期市
議会議員選挙の定数につきま
して、現在、議会運営委員会

において、慎重に協議を重ね
ており、近日中に答申が提出
されるものと思っております。

また、昨年の8月に当市の
引き受けて、山口県市議会議
員研修会を開催し、前三重県
知事の北川正恭先生、専修大
学講師の加藤幸雄先生を講師
としてお招きし、議会改革の
必要性等をご教示いただきま
した。今後、議会基本条例の
制定に向け議論を重ねて行き
たいと思っております。

時代を見据えた情勢分析に
力点を置きながら、市民の皆
様の求める効率のよい行政を
念頭に、市執行部と互いの知
恵を出し合いながら市民参加
の市政運営に努力していく所
存であります。

大変厳しい財政状況ではご
ざいますが、市民の皆様のも
なるご理解、ご協力をいただ
きますようお願いを申し上げ
、この一年の皆様方にとり
まして輝かしい年でありませ
すようご祈念申し上げます。
念頭のご挨拶といたします。

パートナースhip関係の構築
が重要であると確信していま
す。すなわち、国を支えるの
は地方であり、市を支えるの
は市民であるという誇りを、
我々もたなければなりません。
本市においても、メリハリ
のある効果的な行政運営で
まちづくりを進め、市民感覚
に基づく厳格な行政改革に取
り組み、より質の高い行政
サービスを実現いたします。

今年の干支でございます虎
は、「一夜にして千里を走り
抜ける」と古くから言われて
います。私も虎の勢いにあや
かり、これからも市民の皆様
方にとつて夢と希望、そして
誇りに満ちた交流拠点都市実
現に向かつて疾走し、第一次
美祢市総合計画に基づく政策
を着実に推進するという確固
たる信念をもって、市政運営
にあたってまいる所存です。
何とぞ、本年が美祢市にと
りまして、輝かしい年となり
ますよう、ご支援賜りますよ
う心からお願ひ申し上げます。

新年が、市民の皆様におか
れまして、健康で喜びに満ち
あふれた一年となりますこと
を心からお祈りし、新年のご
あいさつといたします。